

三重県志摩市から得られたシノビテングハギの 三重県初記録および北限記録

高橋夢加・木村清志

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577 三重大学大学院生物資源学研究所

はじめに

ニザダイ科テングハギ属 (*Acanthuridae*, *Naso*) は尾柄側面に不可動の骨質板を1-2個もつニザダイ科魚類で、インド・太平洋域から20有効種が認められ (Randall, 2001, 2002; Johnson, 2002; Ho et al., 2011), このうち日本では15種が知られている (島田, 2013; 瀬能ほか, 2013; 松沼・本村, 2013). シノビテングハギ (*Naso tergus* Ho, Shen and Chang, 2011) は台湾をタイプ産地とし、フィリピンおよび日本のトカラ列島中之島および琉球列島にて確認されている (松沼・本村, 2013; Matsunuma et al., 2013; 松沼ほか, 2015). 2008年2月21日に三重県志摩市で漁獲され、三重大学大学院生物資源学研究所水産実験所に保管されたテングハギ属の標本を精査したところ、シノビテングハギに同定された。本標本は日本から得られたシノビテングハギの北限記録であるとともに三重県初記録であるため、ここに報告する。

材料と方法

計数・計測項目と方法は Ho et al. (2011) および松沼・本村 (2013) にしたがった。標準体長は SL と表記した。計測はデジタルノギスおよびノギスを用いて 0.1 mm 単位で行った。一部の棘は破損しており計測できなかった。計測値は SL に対する百分率で示した。本研究に用いた標本は三

重大学大学院生物資源学研究所水産実験所 (機関略称; FRLM) に保管されている。

結果と考察

Naso tergus Ho, Shen and Chang, 2011

シノビテングハギ (Figs. 1, 2)

標本 FRLM 34172, 336.2 mm SL, 三重県志摩市志摩町片田, 片田漁港定置網, 榊原弘陸, 三重県志摩市志摩町和具の商店にて購入, 2008年2月21日。

記載 背鰭 VI, 28. 臀鰭 II, 27. 胸鰭 16. 腹鰭 I, 3. 鰓耙数 $3 + 13 = 16$. 体各部の体長に対する割合 (%) は下記のとおり: 頭長 24.4; 体高 33.9; 体幅 13.0; 背鰭前長 25.9; 胸鰭前長 23.6; 腹鰭前長 29.2; 臀鰭前長 38.1; 吻長 13.8; 眼径 6.3; 両眼間隔幅 8.9; 上顎長 5.6; 眼下幅 8.7; 第1背鰭棘長 9.4; 第2背鰭棘長 8.9; 第4背鰭棘長 8.8; 第6背鰭棘長 8.4; 胸鰭長 14.5; 腹鰭棘長 10.1; 第2臀鰭棘長 6.2; 尾柄長 10.2; 尾柄高 4.1; 尾柄幅 5.8; 尾鰭湾入長 16.2; 尾鰭長 23.1. 体は細長い楕円形で、体高は背鰭第2軟条基底付近で最大となり、側偏する。頭部は尖り、吻背面の輪郭はわずかに膨出し、その後眼の上方から尾柄にかけては、背鰭第2軟条基底付近を頂点とした緩やかな弧を描く。体腹縁は下顎先端から臀鰭第2軟条基底付近まで弧を描きながら下降し、その後緩やかに上昇し、尾柄に達する。尾柄部はほぼ円筒形で、後方に向かって細くなり、背側と腹側に欠刻をもつ。上顎は下顎よりわずかに突出する。両顎歯は非常に小さく、先端が尖った細長い円筒形。鼻孔は2対で前鼻孔と後鼻孔は接近し、眼の前方にある。前鼻孔は後鼻孔よりも大きく、開口部に薄い肉質の縁をもち、後縁にごく小さな三角形の皮

Takahashi, Y. and S. Kimura. 2020. First and northernmost records of *Naso tergus* (Acanthuridae) from Mie Prefecture, Japan. *Nature of Kagoshima* 46: 415-417.

✉ SK: Graduate School of Bioresources, Mie University, 1577 Kurimamachiya-cho, Tsu, Mie 514-8507, Japan (e-mail: kimura-s@bio.mie-u.ac.jp).

Published online: 10 March 2020

http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_046/046-076.pdf



Fig. 1. Preserved specimen of *Naso tergus*, FRLM 34172, 336.2 mm SL, Shima, Mie, Japan.



Fig. 2. Ventral view of caudal peduncle of *Naso tergus*, FRLM 34172, 336.2 mm SL, Shima, Mie, Japan.

弁をもつ。後鼻孔には肉質の縁や皮弁が無い。眼前部の溝は眼中央よりやや上から後鼻孔の下方付近までは前下方へ向かい、幅狭く深い。後鼻孔より前方では溝はほぼ前方へ直走し、次第に浅くなり、吻中央のわずかに前方に達する。肛門は腹鰭と臀鰭始部間の前方 $2/3$ 程度に位置し、腹鰭第3軟条後方の鰭膜は肛門中央付近まで伸びる。尾柄側面に円形の不可動骨質板が2個あり、翼状の隆起縁が発達する。隆起縁は前方に向かい鉤状に湾曲し、その先端は尖る。背鰭は主鰭蓋骨後縁直上のわずかに後方から始まり、前方の尾柄骨質板前縁直上のわずかに前方で終わる。臀鰭は背鰭第4棘基底直下に始まり、前方の尾柄骨質板前縁直下で終わる。背鰭および臀鰭の鰭膜縁辺は体の輪郭にほぼ平行。胸鰭始部は鰭蓋後縁に隣接する。胸鰭は第3軟条が最長で、それより後方の軟条は徐々に短くなり、鰭の後縁は円みをおびる。腹鰭

は胸鰭基底後端直下に位置し、第1軟条が最長で、鰭の先端は尖る。尾鰭両葉後端は伸長せず、尾鰭後縁はやや湾入した截形。頭部および体は下唇後方を除いて硬く剥がれにくい微細な鱗で覆われる。各鰭の鰭条も同様な鱗で覆われるが、鰭膜と胸鰭基底の関節部は無鱗。側線は鰓孔上端の上方から始まり、体背側面を背縁とほぼ平行に走り、前方の尾柄骨質板付近で終わる。

色彩 固定後の色彩—頭部および体は背面から腹部にかけて濃い褐色から褐色へのグラデーションを呈し、顕著な斑紋は存在しない。背鰭および臀鰭、腹鰭は一様に淡い黒褐色。尾鰭は褐色で、後方は黄色みを帯び、縁辺は白色。胸鰭は褐色で、中央付近はやや黄色を帯びる。

分布 日本ではトカラ列島中之島および琉球列島（松沼・本村, 2013；松沼ほか, 2015）および三重県志摩市（本研究）。海外では台湾およびフィリピン（Ho et al., 2011；Matsunuma et al., 2013）。

備考 今回得られた三重県産の標本は、背鰭が6棘28軟条、臀鰭が2棘27軟条、尾鰭がやや湾入した截形、尾柄側面に前方に湾曲し尖る骨質板が2個あるなどの特徴がHo et al. (2011)や松沼・本村 (2013) による *N. tergus* の記載と一致した。尾柄長が10.2% SLとHo et al. (2011)や松沼・本村 (2013) の値よりわずかに長かったが個体差の範囲と考えた。

三重県では、近年黒潮による輸送の結果と考えられるさまざまな熱帯性魚類の記録が報告され

ており [テングハギ属のマサカリテングハギ *Naso mcdadei* Johnson, 2002 (高橋・木村, 2019); アジ科のイトウオニヒラアジ *Caranx heberi* (Bennett, 1830), ミナミギンガメアジ *Caranx tille* Cuvier, 1833, サクラアジ *Decapterus smithvanizi* Kimura, Katahira and Kuriwa, 2013, およびインドオキアジ *Uraspis uraspis* (Günther, 1860) (宿女ほか, 2018); アジ科のキツネアカアジ *Decapterus kurroides* Bleeker, 1855 (高橋ほか, 2018) など], 今後も未記録の熱帯性魚類が発見される可能性が多分に考えられる. 三重県の魚類相の把握および黒潮による魚類の輸送解明のためにも三重県における魚類相の定点的な調査が望まれる.

シノビテングハギの日本国内における報告は上記の「分布」の項に示したとおりである. したがって本報告の三重県志摩市から得られた標本は, 三重県における初めての記録となるとともに, 本種の分布北限を更新する記録となる.

■ 謝辞

本標本を提供していただいた三重大学大学院生物資源学研究所水産実験所 OB の榎原弘陸氏と本標本の入手に協力いただいた三重県志摩市の商店のヤダヤに深甚の謝意を表す.

■ 参考文献

- Ho, H.-C., K.-N. Shen and C.-W. Chang. 2011. A new species of the unicornfish genus *Naso* (Teleostei: Acanthuridae) from Taiwan, with comments on its phylogenetic relationship. The Raffles Bulletin of Zoology, 59: 205–211.
- Johnson, J. W. 2002. *Naso mcdadei*, a new species of unicornfish (Perciformes: Acanthuridae), with a review of the *Naso tuberosus* species complex. Australian Journal of Zoology, 50: 293–311.
- 松沼瑞樹・本村浩之. 2013. 鹿児島県トカラ列島から得られた日本初記録のニザダイ科シノビテングハギ (新称) *Naso tegrus*. 魚類学雑誌, 60 (2): 103–110.
- 松沼瑞樹・桜井 雄・本村浩之. 2015. 琉球列島から得られたニザダイ科魚類シノビテングハギ *Naso tergus* の記録. Nature of Kagoshima, 41: 149–152.
- Matsunuma, M., S. Tashiro, U. B. Alama, and H. Motomura. 2013. First record of a unicornfish, *Naso tergus* (Perciformes: Acanthuridae), from the Philippines. Memoirs of Faculty of Fisheries Kagoshima University, 62: 7–10.
- Randall, J. E. 2001. *Naso reticulatus*, a new unicornfish (Perciformes: Acanthuridae) from Taiwan and Indonesia, with a key to the species of *Naso*. Zoological Studies, 40: 170–176.
- 島田和彦. 2013. ニザダイ科. Pp. 1619–1631, 2215–2218. 中坊徹次 (編). 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- 高橋夢加・木村清志. 2019. 三重県尾鷲湾から得られたマサカリテングハギの三重県初記録および日本における3個体目の記録. Nature of Kagoshima, 46: 159–162.
- 高橋夢加・岡田 誠・笹木大地・本村浩之・木村清志. 2018. 熊野灘と東シナ海から得られた日本初記録のムロアジ属魚類 *Decapterus kurroides* キツネアカアジ (新称). 魚類学雑誌, 65 (2): 181–185.
- 宿女太志・岡田 誠・笹木大地・木村清志. 2018. 三重県初記録ならびに分布北限記録更新のアジ科魚類4種. Nature of Kagoshima, 45: 1–9.